



こんにちは。本館4階にあります第二病棟です。
当病棟は54床あり、一般病床19床、地域包括ケア病床35床と、ふたつの機能を持ち合わせた構成となっています。一般病床は糖尿病、肺炎などの一般内科や心不全、不整脈などの循環器内科の治療、白内障、睡眠時無呼吸症候群の検査入院などを主に受け入れています。地域包括ケア病床は当院に限らず、周辺の総合病院で急性期治療を終え病状が安定した患者さんを受け入れ、日常生活援助、リハビリ、自宅退院や施設入所に向けての支援を行っています。また、在宅での介護を担われているご家族の休息や、介護者の事情等により一時的に在宅での療養継続が困難となった方のレスパイト入院にも対応しています。

「家に帰りたけれど、家族に迷惑をかけたくない」「自宅で介護ができるか不安」「退院後の療養先をどうしたらいいのか分からない」など、患者さんやご家族が抱える不安は様々です。看護部は今年度目標として『患者・家族の意思決定を捉え、療養中や退院後の生活を考慮した支援をする』ことを掲げています。安心して入院生活を送り、不安なく退院ができるように患者さんやご家族の意向を尊重し、寄り添った支援を心掛けています。医師・看護師・介護士だけでなく、リハビリ・薬剤師・栄養士・歯科衛生士・社会福祉士・クラークなど、多職種が協働し入院生活を支えています。退院に向けてはケアマネージャー・訪問診療・訪問看護・施設職員などの外部の方々を含めたカンファレンスも積極的に行っています。

病棟スタッフ間のコミュニケーションは良好で、スタッフひとりひとりが患者さんに真摯に向き合い、信頼関係を築くことを第一に考えています。面会制限のある中、ご家族は入院中の病状や様子が分からず、ご心配な日々を送っているかもしれません。洗濯物や荷物の受け渡しでご来院の際には、少しでも安心していただけるように患者さんの様子を伝えていけたらと思っています。入院するなら北病院、第二病棟にと望まれるような病棟でありたいです。

第二病棟 馬淵

マイナンバーカードを活用しましょう！

ご存じですか？

マイナンバーカードを保険証情報と紐づけすると、マイナンバーカードで保険証確認ができます！

■ 総合受付でカードをご提示ください

専用端末で読み取るだけ！保険証と同じように使えます。
※ 各種受給者証は、従来と同様に提示が必要です

■ マイナポータルもご活用ください

マイナポータル(Webサイト)で、健康保険情報、薬剤情報、特定健診情報や医療費通知情報が閲覧できます。また、確定申告の医療費控除が簡単になったりと、便利な機能があります。

詳しくは、マイナポータルをご覧ください。
(右のQRコードからアクセスできます)



〒431-3113

静岡県 浜松市 東区 大瀬町1568

TEL (053)-435-1111

FAX (053)-433-2700

Webページはこちら(QRコード) >>



翔 ぎ

は ば た

2022
夏号
No. 66



マイナンバーカード読み取り端末
顔認証機能もあります



医療法人社団 盛翔会
浜松北病院

基本理念

思いやりを基本とした
愛情ある医療と福祉を実現する



訪問診療のご紹介

皆さん、こんにちは。脳神経外科の牧野一重です。2018年6月から火曜日と水曜日の外来を担当し、水曜日の午後に訪問診療を行っています。今回は、私が担当している高齢者施設への訪問診療についてお話したいと思います。

現在、定期的に訪問している施設は2か所で、グループホーム「市野の家」（市野町287-1）とサービス付き高齢者向け住宅「おおるり笠井」（笠井町865-2）です。それぞれの施設に月1~2回、1時間半くらいかけて10名前後の入所者さんを診察しています。



訪問診療は、外来診察とは異なりレントゲン検査などはできませんが、採血や予防接種は行うことができ、精密検査が必要であれば外来受診を勧めています。

状態が安定していれば通常の訪問診療で対応し、精査等が必要な場合には外来入院診療、と使い分けることで、それぞれの医療資源を有効に活用できると考えています。なお、フットケアに精通した看護師による足の爪切りや処置、食形態を決めるための嚥下評価などは訪問先でも行っており、これらは当院独自の取り組みと言えます。

実際の診察では、入所者さんの訴えを傾聴し、施設スタッフからの情報も加味しながら、体調の良し悪しを判断していきます。入所者さんの多くは高齢者で、便秘、不眠、皮膚のトラブルなど、ごくありふれた日常的な問題が多いのですが、症状コントロールに難渋することも少なくありません。そのような場合、

非専門分野だからと諦めるのではなく、職種を超えて皆で知恵を出し合い、試行錯誤しながら解決策を見出していくようにしています。

例えば、不眠で困っている方に安易に睡眠導入剤を処方すると、夜間トイレに起きた際にふらついて転倒し骨折するリスクが考えられます。かといって睡眠不足が続くと、体調が悪くなったり、昼夜逆転で夜勤スタッフの負担が増えたりと放置する訳にもいきません。

このようなケースでは恐らく、唯一の正解があるのではなく、ご本人、ご家族、スタッフのそれぞれの思いを踏まえて、医学的な見地から妥協点（落としどころ）を探っていき、状況に合わせて柔軟に修正していく姿勢がベストなのではと、現時点では考えています。



昨今の高齢化社会、医療費増大など、私たちを取り巻く環境の変化から、国は在宅医療を推進しています。ただ、認知症や体調面から在宅での生活が困難な方もおられ、そのような方々の受け皿としての高齢者施設は今後も必要だと思われます。

これからも、地域医療を担う当院の取り組みの一環としての訪問診療を継続していきたいと思っています。

牧野 一重 医師

脳神経外科

外来 火・水曜日（午前）

訪問診療 水曜日（午後）



『鉢の中の小さな地球』

田の水鏡が綺麗な季節。青空映せば気分も晴れやかに。茜色ならば気持ちは落ち着きます。風の無い日は、しばし見惚れてしまいます。

その光景を再現したい…という訳ではないのですが、火鉢に水を張り、所々に置いています。

水の中ではメダカ、タニシや2枚貝、ヌマエビを住ませ、スイレンや水草を茂らせています。小さなビオトープと言ったところでしょうか。彼らを飼い始めた時は、水が濁ったり、腐ったりで大変でしたが、試行錯誤を重ね、今では水を換えたり鉢を洗ったりする事ありません。蒸発して減った水を毎日補うだけです（植木の水やり時に）。水質・環境の維持は彼ら任せ。メダカの糞や死骸はバクテリアが分解し、それを栄養に水草や藻が育つ。藻はエビの餌となり、貝は水の浄化をしてくれます。おかげで鉢の中の水は常に透き通っています。小学生理科の教科書に出ていた通り、食物連鎖が出来上がり、小さな地球がここにあります。

メダカは、空腹の時は、元気よく集まって来て餌をねだりますが、普段は大人しく、水面は静かで、時間で変わりゆく空の色を綺麗に映します。カエルも住み着きました。今日も可愛い声で鳴いています。雀も水浴びにやってきます。近くでは餌を待つ雀のヒナの鳴き声。この様に色々な生き物が集まりますが、鳩だけは追い払うようにしています（糞害対策です）。皆さんが本誌を手に入れている頃は、スイレンが白く綺麗な花を咲かせていると思います。そよ風の葉音や集まる生き物の声を聞きながら、ベンチでの昼寝が日課です。（背中が痛くなるのが難点）

暑くジメジメした季節。気持ちも萎え、やる気も体力も落ちる昨今、この水鉢には色々救われています。

皆さんも鉢をテラフォーミング(惑星地球化)してみたい？ある程度、日が当たる場所ならば、梅干しを漬ける小さな甕(かめ)でも作れます。（透き通った容器はお勧めしません。綺麗に保てず管理が大変です）